

平成30年度 第2回 草津市健康づくり推進協議会		
日時	平成31年2月26日（火）午後1時30分～3時30分	
会場	草津市役所 8階大会議室	
出席者	委員	樋上会長、肥塚副会長、深草委員、堀委員、義川委員、荒木委員、山元讓治委員、垣根委員、柴田委員、馬場委員、山本正行委員、高嶋委員、高田委員、喜田委員〔計13名、順不同〕
	事務局	健康福祉部長・西典子、健康福祉部理事・溝口智紀、健康福祉部副部長・小川薫子、健康増進課長・山田高裕、同課係長・清水葉子、同課副係長・山岡道子、同課専門員・大隅ゆかり、同課主査・田中優佳、同課主任・大槻真里
欠席者	委員	吉川委員、池上委員、太田委員、中村委員、山本慶佑委員、増井満委員
会議資料	別添のとおり	

次第1、協議事項①健康増進計画推進部会から働く世代の健康づくりについて、事務局より説明。

（会長）今までの御説明を聞かれて何か御意見、御質問はございませんでしょうか。

（委員）2点ほどお伺いします。資料1-1には現状のデータを分析されたデータがありますが、これは滋賀県の一般的なデータからは草津市の特徴的な傾向が示せないと思いますが、その辺はいかがですか。2点目は、働く世代の健康とありますが、働く世代の定義はどのように捉えられて認識しているのかお伺いしたいと思います。

（事務局）資料のグラフですが、出典は「滋賀の健康栄養マップ調査」で、平成27年の調査結果となります。こちらのグラフにつきましては、この調査の中で草津市民の方が回答されたものを抽出して作成をしています。働く世代については、学校を卒業して働き出されるのが20代ですので、20代から60代が働く世代ではないかと思いますが、働く世代の健康づくりでは、30代、40代、50代の方をターゲットにしています。

（委員）「健康くさつ21」での働く世代というのは、20歳から69歳までで全員ですよ。だから、その中でももう少し若い20代から40代50代ぐらいまでをターゲットにするということであれば、働く世代という言い方で論議をしているとターゲットがぼやけてくるのではないかと思います。働く世代全体の中で、若い世代をターゲットとして取り組みをしているという示し方をしたほうがぼやけてこないと思います。

（委員）この健康イベントの体力測定は去年11月に草津川で行われたものですか。

（事務局）健康フェアですね。そちらも今年度については年4回の内の1回を健幸フェアで実施しました。

（委員）私の知り合いがそのイベントで体力測定をして、調子に乗ってやり過ぎて背骨が折れたそうです。2カ月たった今でも杖をもって歩いているのですが、今までそのような事例があるのかなのか、配慮が常に行われているのか、お聞きしたいです。

（事務局）過去にはそのような事例はございません。

（委員）内容は、椅子の上で30秒間に何回座って立ってができるかというものです。30秒間で38回ぐらいらしいです。背骨が圧迫骨折で折れて、手術したそうです。

そういう参加者もいるということを知ってほしいのと、余り無理な体力測定の種類を入れないように高齢者も多いと思いますので、高齢者ですとそれが負担になる可能性もありますので、これからは配慮してほしいと思います。

(会 長) 草津市は統計によりますと、日本でも長寿で、一昨年の調査では日本で4番目でしたね。全国の市区町村で男性は4番でしたが、女性が何十位かでした。男性は平均寿命が長く女性は平均寿命が下がっている。県の統計でも去年は2位に転落しましたが、一昨年の統計では平均寿命が1番でした。女性は4番でしたか、すこし男女差があるようです。

(事務局) 平成27年では平均寿命は男性が全国で5位でございます。

(会 長) 平成29年の12月に発表された統計では滋賀県が平均寿命男1番で女が4番くらいでしたよ。そのとき草津市が全国で4番目でした。上位とはいえ男女の差があるなどと思っていましたが、女性をターゲットにした健康づくり事業などは考えてはいないのでしょうか。長寿の要因として、滋賀県は喫煙率が日本で一番低いということが一番の原因ではないかと言う人がいます。滋賀県が一生懸命禁煙対策をされていて、効果が出てきているのだと思います。

(委 員) このグラフを見て、やはり40歳代、30後半の参加が高いのは子ども連れで会場にいけるイベントに魅力があるのかと思います。50歳代はなかなかそういうイベントに出かけられない世代であることが顕著にあらわれていることがわかりました。

(会 長) 50代60代は健康に関心がある世代という気はしますが、このデータを見ると50代60代の方はあまり参加されてないようですね。

(事務局) 補足ですが、資料1-2のセルフチェックデーの平成30年開催別体力チェック参加状況という折れ線グラフは、このセルフチェックデー4回について実施をしたイベントごとでの年代別の参加状況です。オレンジ色が健康フェアになりますが、このイベントにつきましては60代70代の方が参加率は高くなっております。それ以外の商業施設でのイベントになると、家族連れや子ども連れなど、3、40代の参加が多いと考えています。健康イベントの中で開催をさせていただきますと、健康に意識の高い比較的年齢層の高い方の参加率が高いのではないかと、若い世代に働きかけをしようと思うと人が集まる場所に市がイベントを実施させていただいて、いろんな方に興味をもっていただく取り組みが大事なのではないかとこのところがイベントを通しても見えてきましたので、このような表示をさせていただいております。

(会 長) 健康フェアはどこで実施したのですか。

(事務局) 草津川跡地です。

(会 長) 開催する場所によっても集まる人はかわるといふことですね。

次第1、協議事項②健康増進部会・保健推進部会合同会議から糖尿病と歯周病について説明。

(委 員) 資料2のHbA1cの表ですが、この図の下で40から70歳の以上の人の男女ともに県と比較し高いが有意でないと書いてあります。表を見ると赤色ですよ。この表とこの説明となにが違うのか教えてほしいです。この有意というのはどういう意味ですか。

- (事務局) この図1の表につきましては、この表はHbA1cが5.6%以上の方の図になります。この中には6.5%以上の方も含まれている状況ですが、それが有意に高い状況ということで、その下にあります40歳から74歳のHbA1c6.5%以上の人は有意ではないけれども、県と比較すると高い状況ということになります。
- (会長) 統計的に差がなかったという意味ではないですか。有意ではないということは少し高めですが、差があるとは統計的にはいえないという意味ですね。有意であるということは明らかに差があるという意味。有意ではないということは統計的には差がなかったということ。有意ではないというのは割合が39%、40%でしたが、統計的に考えたら変わりはないという意味ですね。
- (委員) 数値は高いけど、統計的には差がない。数値は高いけど統計的に差がある。数値は低いけど統計的に差がある。数値は低いけど統計的に差がない。以上の四つですね。
- (会長) そういう意味です。有意ではないというのは、この二つの集団を比べてどっちが高いかとはいえないということです。多少の差はあるけれども、統計的には、集団を見比べた場合、草津市は例えば平均寿命が70歳で栗東市が71歳としても統計的に処理したら差があるかどうかといえないという意味合いです。はっきりした差はないという意味です。
- (委員) もう一つ、特定健康診査についての表3は一応国保の加入者のデータをもってきておられますよね。草津市の全体をとらまえないといけないですが、国保加入者のみを参考資料としても全体のとらまえ方として適当なのかどうか。また、国保加入者のデータなのか、全体のデータなのかはわかりづらい。その点は問題ないかお伺いしたい。被用者保険全体を見たときにどうなのかということも含めて全体を把握できているのかをお伺いしたい。
- (会長) 社保の人と国保の人で対象者に年齢差があるということですね。
- (事務局) そうですね、やはり被用者保険のほうが若い年齢層の方が多いので、国保の方のほうが年齢的には高い状況になっています。それも踏まえてもっと被用者保険の方のデータをいただきながら分析をしていく必要があるとは考えています。
- (会長) 社保のデータをもらえるのですか。
- (事務局) データをいただけたらよいのですが、データのやり取りができないので難しいです。
- (委員) 今いわれたように国保の構造が特殊なので、全体をあらわせないといけないと思います。
- (会長) 被用者保険の人の全体的な統計はないのですか。滋賀県全体などは公表されていないのですか。大分年齢構成が違うと思います。
- (事務局) 健保ごとのデータは出していただいています。滋賀県内で市町村ごとに国保と健保を合わせたデータはなく、今一番わかる状況がこの健診マップになります。
- (委員) 厚生労働省がデータを集めていますので、データベースはあるはずですが、草津市として請求してもらえば解析は恐らく許可を得られるのではないかと思います。実際それを誰がどのようにするか、厚生労働省がデータ提供するときの環境に草津市が合致するのかなどはわかりませんが、基本的に厚生労働省に全部のデータはありますので、恐らく個別のデータをもらえると。必要であれば集計など、県単位で検討して各市町村に提供するようなことをお願いするなどすれば可能かと思います。

- (委 員) 滋賀県の保険者協議会では各健康保険組合のデータはあります。共済組合だとか、企業の健康保険ごとのデータはありますが、その企業で勤めている人のうちどなたが草津市民で、どなたが栗東市民、どなたが高島市民という区別ができないので、健保ごとのデータはありますが、市町ごと市民ごとに解析するところまではできていません。県のほうでは組合ごと、国保の場合は市ごとのデータがあり、社会保険は組合ごとのデータはありますが、それを住所ごとに分けて分析はできていない現状です。
- (委 員) 歯科医師会の来年度の方向性としまして、6月2日にアルプラザ草津で「かむカムフェスタ」という口腔衛生啓発のイベントを行います。節目歯科健診と糖尿病の啓発を行いますので御参加お願いします。節目歯科健診について受診率について歯科医師会としましては満足していないところです。草津市と受診料について、受診率がまだまだ低いということもあり、現状そのままの健診料にさせていただいております。他市との受診料の差がありますことから、受診料をアップするとどのような影響があるのか数値的に根拠となるものがあるのであれば教えていただきたいです。医科の健診受診率のデータからも教えていただければありがたいです。また、医科の健診料について増税に合わせて改定予定があるのかどうか教えていただきたいです。
- (会 長) 消費税率が変更になったら、10月から委託料変更するのではしたね。
- (事 務 局) 歯科医師会委託分についてはそのままですが、消費税の税率に合わせてアップしていく形となります。最初にお話しいただいた6月のイベントにつきましてもまだ予算要求している段階ですが、十分調整しながらイベントを盛り上げていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。
- (会 長) 年齢別にデータを出してもらえないと40代の人の糖尿病でも40代の人のHbA1c 5.6と70代の人の5.6では全然意味が違ってくると思います。人口構成もこれは国保ですね。全人口で比較しないと判断できない面があると思いますが、多い少ないだけ取り上げてとも思います。
- (事 務 局) 年齢別につきましてはできますが、国保の特定健診から言うと40代50代の受診率が低い状況でその低い状況の中でも50歳代でヘモグロビンA1c 5.6%以上ある方が半数おられる状況で、男女ともに高い状況であると思っておりますので、しっかりこの分析をさせていただいて、対策を考えていきたいと思っております。
- (会 長) 節目歯科健診など節目で実施されていて、40歳で歯周病が33.3%ありますが、その人方たちのHbA1cの値などは調べられないのですか。歯周病で糖尿病が見つかることがあると聞いていますが。
- (事 務 局) 国保の方については、関連データを分析できると思います。
- (会 長) 節目歯科健診受診者は国保も社保もいるのですか。
- (事 務 局) 節目歯科健診についてはどちらの方もおられます。
- (会 長) 草津市はHbA1cが高い割に平均寿命長いですが、本来あり得ない話で何か要因があるのか、糖尿病は関係ないといえるのかも考えていく必要があると思います。

次第2. 報告事項①草津市食育推進懇話会について事務局から説明。

- (会 長) この取り組みをしてどれだけの人が食べたというのはわからないのですか。

- (事務局) そちらはわかりませんが、各店舗にコースターを配布させていただいて、3か月合計で3万人ぐらいに啓発ができたと思います。
- (会長) それはコースターを配った数ですよ。食べた人数ではないということですね。
- (事務局) はい。コースターを配った数になります。コースターを出していただいたということは食事をされたということになると考えております。
- (委員) ひと月ほど前に小学校で戦争と平和という講座があり、すいとんをつくりました。そのときに、3つも4つも材料を入れないでくださいと言われてました。嫌いな子が多い、アレルギーがあるということで制限がありました。統計などは聞いていませんが、昔と今は大分変わってきていると思います。子どもに聞くとニンジン嫌、もやし嫌、小芋嫌というようになり好き嫌いを言います。体力づくりはバランスよく全てのものを食べるとことだと思しますので、今の子どもたちの好き嫌いや食べ物の傾向を調査するのは可能なかどうか、またその必要はないのかについてお聞きしたい。
- (委員) 保育所除去食では、海鮮類、卵や牛乳などはアレルギーで除去することが多くなりますが、野菜はほとんど除去する必要はなく、逆に除去食の子どもは野菜を中心に食べられています。好き嫌いは別として、アレルギーなどで体に取り入れてはいけないものは和食のほうが除去は少ないです。小麦粉はアレルギーがある子どもはいます。小麦粉、卵というものは結構、排除しないといけないものになります。
- (委員) 制約がありすぎて、何を作ったらよいのかわかりません。昔はそんなことなかったですが。
- (委員) 保育所では給食の中で除去が必要な子どもも食べられる日をつくっています。同じものを食べたいという気持ちがあるので、みんなが食べられる日を設けています。大体和食になります。野菜中心だどどの子どもも食べられる食事になります。
- (委員) 昔は食べ物の好き嫌い、あるいは食べて体調を崩しても偏食という扱いをされていたのが、血液検査でアレルギーの有無を調べられるようになり、原因が判明するようになりましたが、アレルギーがあるという結果があっても食べると必ずしも症状を起こすかは何ともいえないところがあります。ただ、アレルギーがあると分かっていると、教育施設や公的な場では提供することはできなくなります。その結果、アレルギーに敏感になりやすくなっているし、検査ができるようになったことで、食べたらだめだよというようになったのが現状ではないかと思えます。
- (会長) 小麦粉は熱を入れてもダメなのですか。小麦粉の中でもたんぱく質のグルテンがアレルギーでしたね。
- (委員) グルテンのアレルギーは多く、除去の必要がある子どもは多いですね。
- (委員) 学校給食のことですが、朝食を食べてこない子ども、食べてくる子どもの話が出たときに、今の学校給食では、残さないで食べられる分をしっかりと食べるようにと指導していると聞きました。私の学区では、健康だけでも細い子どもが多いという話を聞いて、マンションが多く都会から来た子どもが多いからだろうかという話になりました。インフルエンザもかからず、元気で過ごしているけれど体力はあるのかなという話も出ました。学校での給食指導を聞いて、時代は変わっているな、食育も変わってきたのかなというようなことを感じた会議がありました。
- (委員) 保育所でも小学校でも同じだと思いますが、食べられる量は子どもによって様々で、

残すのはよくないので、できるだけ食べきれる量を入れてあげるようにしています。小学校でも同じではないかと思えます。

(委 員) 食べ物を残す、残さないなど様々な話があると思いますが、たんぱく質をとらないのは問題ですが、豚肉を食べなくても鶏肉を食べればバランスはとれるという意味では好き嫌いがあっても、アレルギーの問題等で食べられないこともあります。偏ったものを食べていたとしてもそれ自体で健康上の問題になるかという点とあまりないです。よく言われているのは、男性の場合は世界中で肥満が問題です。日本でも肥満の方は多いですが、逆に若い女性で東アジアに関しては世界的にみても痩せが問題になっています。健康上よくないと一般的に思われている程度の痩せの人が増えていることが問題です。若い女性に関しては痩せについて逆に指導していかないと健康障害が問題になると思えます。

(会 長) 女性は将来骨粗しょう症になりやすいと言われていています。草津市も子ども食堂を実施されていますが、栗東市も子ども食堂を応援しようと社会福祉協議会を中心に、寄附金を募っていますが、食べない人もいれば一方で食べられない人もおられるということですね。立命館大学で100円朝食をやったらたくさん食べにきたと聞いています。朝食を食べない子どもというのは問題になっていますので、これも食育の問題ではないかと思えます。

(委 員) 食育チャレンジデー事業で参加店舗をふやしたいということですが、お客を増やせるとか、参加した場合何かこうメリットがあるのでしょうか。参加していただくためにはそういう面がないと、手も挙げてもらえないのではないのでしょうか。

(事 務 局) まずどのような取り組みをしてきたかですが、こちらについては今年度はじめての事業になります。募集に際しては滋賀県のオープンデータに飲食店の一覧がございますので、草津市内の飲食のうち、お食事を提供されている店舗については全てに封書で食育チャレンジ事業の参加について資料を送付し参画協力を募りました。また、滋賀県の健康づくりサポーターと草津市の健康都市宣言に賛同している事業所にある飲食店につきましては、直接お伺いし御案内しました。ホームページや広報くさつに掲載し、事業の周知をいたしました。同時に店舗の募集についても行いました。参加店舗側のメリットは、今年度は、市で広報に掲載したこと、ホームページ、市のフェイスブックにも掲載をし、取り組みのPRをしたところになります。また、コースターをはじめポスター、チラシ、ポップなどの啓発媒体を作成し、これらを使っただきました。実際に飲食店にいったらと、「BIWA-TEKU」のポイントで20ポイント取れる仕組みもつくらせていただきました。

(会 長) この食育チャレンジ事業には積極的に応募してくれたのですか。

(事 務 局) 参加いただいた16店舗のうち約半分は通知を見て参加申込みいただきました。残り半分はこちらからお伺いさせていただき声かけをした店舗になります。

(委 員) 健康に良い店を選んでもらおうというのであれば、市民がより健康な店を選ぶように変えていくことが大事だと思います。市民が店舗を選べるためにはどうするかが大事だと思います。方法は非常に難しい問題ですが、何か案などお持ちですか。

(事 務 局) 健康の意識や関心が高い方については選んでいただけたと思いますが、この取り組みは、たまたま入ったお店で食べたことが健康につながることも狙っています。関心

のある方だけではなく、無関心な方についても取り組みができる食環境づくりを進めてまいりたいと思っていますので、食育に興味のある方、健康づくりに興味のある方は自分で探して行かれると思いますし、周知はしっかりしていきたいと思っています。一方で無関心な方についても食育につながるようなことができればよいと考えているところです。

(会 長) 草津市内に飲食店はどれくらいあるのですか。

(事務局) 約600店舗近くに御案内を送らせていただいています。お店については、お昼のランチをメインでされているというところ、イタリアンのお店では若い方や女性の方が多い店舗もありました。一方、地域密着型で地域の方々がお食事を楽しまれるお店もあり、飲食店によってさまざまであったと思っています。取り組みのしやすさなどにつながってきたので、そのあたりをどうしていくのが課題と考えております。

(会 長) もっと頑張って参加店舗を増やして、皆さんの行きつけのお店にも参加者を募ってもらうのが一番いいのかもしれない。来年度の取り組みは3カ月だけでなく毎月するのですか。

(事務局) 具体的なところは協議段階ですが、今回いただいた御意見等踏まえ、よりよい事業展開に結びつけていきたいと考えております。

次第2. 報告事項②第2次草津市自殺対策行動計画について事務局から説明。

(会 長) 自殺未遂者の実態や自殺者の実態はオープンにされている情報ですか。

(事務局) オープンにできる内容につきましては、計画書の中でも自殺者数や未遂者の実態は掲載しておりますし、自殺者の数につきましても統計等で警察庁からや厚生労働省からデータが出ており、皆さまにはホームページ等でご覧いただくことはできます。

(会 長) 草津市ではワンストップ、相談したら全てがつながりますというのがありませんでしたか。

(事務局) 人と暮らしのサポートセンターがございまして、基本的に何かお困りのことがあれば御相談をいただければ、相談を受けたものが必要な部署と連携をさせていただき、必要な支援をさせていただくこととなります。

(会 長) 相談は電話でもいいのですか。

(事務局) もちろん電話でも大丈夫です。なかなか相談までつながらない方にどのような支援をどのように働きかけをしたらいいのかというところで、行政や関係機関も含めて、非常に悩んでいるというところです。

(会 長) その相談窓口は、市民さんに周知されていますか。

(事務局) 窓口についても引き続き周知していかないといけないと思っております。

(委 員) 悩みをもっておられる方が相談する一番近道が民生委員ですが、その民生委員の成り手がどんどん減っています。民生委員をフォローする人、またそれにかわるもの、今の時期に立ち上げていかないことには、ひとり暮らしの孤立を少なくする問題は解決しないと思います。人の考え方が昔と今では変わってきていて、世話役をするのが嫌で町内会を脱退する方もいます。どんどん孤立していき、隣近所とケンカしている地域もかなりあります。昔の長屋的な生活様式とは違いますので、私は私で好きな

ことしますという考え方が増えていきますから余計にやりにくいと思います。なにか手助けをすると逆に怒られるという感じです。とにかく役をするのも嫌、人の世話をするの嫌、何をするの嫌という人が増えてきています。

(会 長) 精神疾患も解決しがたいところはあると思いますがいかがですか。経済が上向くと自殺率も減ることは統計的に出ているようですので、全国的に自殺者は減っているということですが。

他に何かありませんか。よろしければ、本日の報告事項は終わりますが、皆さんの委員の任期が今年の5月末までになっておりますので、協議会などについて何か御意見ございましたらいただければよろしいかと思いたすが、いかがでしょうか。

(委 員) 市町村や滋賀県が何々の順位が1位、2位ということももちろん大事だと思います。ただ、1位を目指すことは目的ではありません。日本国内で健康格差があると言っても比較的大きなものではなく、シミュレーションによって順位が変わったりします。ある数字が変わると順位も変わりますので、それだけにとらわれて議論するとおかしな方向に議論が進むのかなと思います。統計で有意、有意じゃないという話題がありました。滋賀県の市町村ごとの資料で統計的に有意なのかどうか、有意でなければたまたま5位だったけど実は運がよければ1位だったかもしれないし、5位であっても去年とは明らかに何かの理由による違いであれば大変な問題が起きているということになり、何が起こったかを議論して対策することが大事になります。有意でない、つまり市町村ごとの小さな差の並び方で変わるのであれば、それを議論することは本質ではないので、あんまり順位や数字だけにとらわれて議論するのは危険だと思います。ここしばらく滋賀県の順位がよかったものですから。1位と2位と3位の差は、本質的に意味があるのかを考えて議論していただくといいと思います。なんらか統計で有意であるなどを踏まえた上で課題がわかるような資料をつくっていただけると議論できると思います。

(会 長) 貴重な御意見ありがとうございます。ほか、何かございませんか。

(委 員) 健康づくりはその因果関係が複雑で、何をすれば成果でるのか難しいと思いますが、以前から計画をつくった後は待ちの姿勢じゃなく自分から必要なところへ出かけていくべきだという意見を言いましたが、その方向で頑張っていたので、これからもその姿勢で進めていただけたらと思います。

(委 員) 私は、企業の健康保険組合で4年ほど仕事をしていましたが、企業の健康づくりと市の健康づくりと難しいなと改めて教えていただいた感じがします。先ほどの健康診断にしましても特定健康診査にしましても、企業の場合は全員受けているというデータと国保の場合は36%ぐらいの方しか受けないとありました。先ほどのデータの話ではないですが、6,000名ぐらいのデータから何をすべきかを無理にこじつけていくのは違うのではないかと思います。草津市の人口は今13、4万人おられて、そのうちの6,000人という5%ぐらいの方のデータをもとに無理やり理屈づけていくのはおかしいのではないかと。長野県や松本市がしています健康づくりのわかりやすいインターバル速報とか、みんなを平均して全部が全部オーケーというわけではないと思いますが、焦点を絞った取り組みがあると非常にわかりやすい、健康づくりを協議する委員会になるのではないかと感じました。

- (会 長) ありがとうございます。長野県は長寿県で男性も女性も1番。逆に青森県では男性も女性もこの何十年間か最下位。運動しない、たばこをすう、酒を飲むと明らかに寿命が短くなってきますので、何かみんなが参加できる参加型のイベントを考えていただければ一番いいのかなと思います。では、事務局から何かございますか。
- (事 務 局) 本日は、議事進行をどうもありがとうございました。また、皆様におかれましてもさまざまな観点から貴重な御意見いただきまして本当にありがとうございました。本日いただきました意見を踏まえながら来年度以降、計画の目標に向けて各種事業に取り組んでまいりたいと考えております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。最後に閉会にあたりまして部長より挨拶をさせていただきます。
- (部 長) どうも皆さん本日は御議論いただきましてありがとうございます。先ほども会長から御案内がありましたように、委員の皆様におかれましては任期が5月という予定で、会議といたしましては本日が最後になります。この会議におきまして御提案いただきました内容を含めまして今後とも進めてまいりたいと思います。健康づくりと申すのは、食や運動や最終的には地域づくりなど、本当に幅広い範囲になると思います。また、年齢層も子どもからお年寄りまで全ての年齢が対象でございます。本当に幅広い事業を私ども進めているのだなというところで、今も御案内がありましたようにもう少し絞らないと意見が出にくいということもあろうかと思っておりますので、本日いただきました御意見、今までにいただきました御意見を含めて市民の皆様の健康づくりに寄与する政策、事業を進めてまいりたいと思っておりますので、皆様におかれましては今後とも御指導賜りますように、改めまして御礼申し上げますようお願いも含めまして、本日は本当にありがとうございました。